

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		転倒が多くなり、骨折手術入院となる事が続いた。退院後歩行が困難になり車椅子利用者が増えた。	①転倒を減らす。 ②退院後自力歩行に戻る。	①転倒事故はほとんどが朝早い時間に起きているので、起床時の見守り、介助、誘導等の優先順位を考える。 ②退院後早い段階から、車椅子の足こぎ、歩行器での介助歩行、杖歩行への移行を計画に入れる。③歩き始めた時期の転倒に充分注 ④廊下、全居室内に手摺を取り付け事故を未然に防ぐように配慮する。 ⑤立位が取れなかったり、歩行が出来ないのに夜間ベッドから降りようとされる方にはセンサーマットの導入を考える。 ⑥入居者様の動きに常に注意をする。	12ヶ月
2					12ヶ月
3		入居後年数が経ち、体力の衰えと共に不活発になった入居者様が多い。 自力で食事が出来ず介助をしている方も多い。	①加齢により弱って行かれる事は有る程度仕方ないが、まだ体力の有る段階から出来るだけ残っている能力を維持する様に工夫する。	①日常生活の中で座って居る時間が長くなるように、なるべくこまめに動いて頂く工夫をする。 ②天候の良い時には少しでも外へ出る機会を作り、また外へ出られない時には屋内でも歩くようにする。 ③下肢筋力低下予防の体操を工夫して毎日す	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。